

NEWS RELEASE

報道関係各位

(1枚目/全2枚)

2012年12月26日

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

2012Jリーグ チェアマン総括

2012シーズンのJリーグは、リーグ戦、Jリーグヤマザキナビスコカップとも20回目の開催を迎えるという節目の年となりました。そして、J1・J2のクラブ数が40に達し、「Jリーグクラブライセンス制度」、「J1昇格プレーオフ」や「J2・JFL間での入れ替え制度」など新しい取り組みの初年度となる、大きな変革の1年でもありました。「共生から競争」へ、われわれはJリーグ全体の価値向上と、ゲームのクオリティーアップを目指すことに全力を傾けてきました。

組織的には、公益認定を受けたことにより、本年4月1日付けで、公益社団法人 日本プロサッカーリーグとして日本サッカーの進化・発展に向け、新たな一歩を踏み出しました。

【リーグ戦、リーグカップ戦】

J1リーグ戦では、サンフレッチェ広島が悲願ともいえる初優勝を成し遂げ、Jリーグ20年の歴史に新たな1ページを加えました。今シーズンから指揮を執った森保 一監督、キャプテンの佐藤寿人選手のもと、卓越した組織力は目を見張るものがありました。森崎和幸・浩司選手、高萩洋次郎選手など、数多くのアカデミー出身選手が活躍するなど、育成型クラブを進化・発展させ、ついに栄冠を勝ち取りました。合わせて、反則ポイントが最も少なく、フェアプレーを貫きながらの優勝も、非常に誇らしく、見事なものでした。

広島と終盤まで激しく優勝を争った、ベガルタ仙台の戦いぶりも称賛に値しました。昨シーズンの4位から2位へ躍進し、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)の出場権も初めて手にしました。東日本大震災の被災地を勇気づける存在となりました。初めてJ1で戦ったサガン鳥栖も、最終節までACL出場権獲得に望みをつなぐなど、5位に入る健闘を見せました。

広島、仙台、鳥栖などは、いずれもしっかりとしたプレースタイルを確立し、堅固な組織的守備の上に、日本人ストライカーが得点を量産して好成績を収めました。一方で、鹿島アントラーズ、ガンバ大阪といった実績のある強豪の苦戦も目立ちました。こうしたクラブによってこれまでになく伯仲した戦いが展開されたことは、Jリーグ20年の成熟度を示しているものと考えています。

J2リーグ戦では、ヴァンフォーレ甲府が最終節まで24試合連続無敗という、今後も破られそうにないと思える素晴らしい記録をつくり、優勝を飾りました。同じく昇格を果たした湘南ベルマーレ、大分トリニータとともに、来シーズンのJ1での活躍が期待されます。また、今シーズンから導入されたJ1昇格プレーオフ、J2・JFL間での入れ替え制度によって、最終節まで予断を許さぬ戦いが続き、リーグ戦が活性化しました。

2012Jリーグヤマザキナビスコカップでは、鹿島が2連覇を果たしました。自らの持つ記録を更新し、大会史上最多となる5回目の優勝は、20回目の記念すべき大会にふさわしい歴史的偉業といえるでしょう。

【Jリーグアカデミーの成果】

今夏に開催されたロンドンオリンピックにおいて、男子日本代表は44年ぶりにベスト4入りする快挙を成し遂げました。チームの全員がJクラブ所属またはJクラブ出身の選手であり、その多くがJクラブのアカデミー出身でした。オリンピックに出場するレベルから世界のトップクラスへ、20年にわたり、リーグとして選手の育成に力点を置き、指導者の養成ならびに育成メソッドの確立の結果がこの成績につながったものであると確信しています。今後もとどまることなく、世界のトッププレーヤーを育成するためのアカデミー施策を推し進めていきます。

Jリーグトップパートナー

Calbee

Canon

KONAMI

AIDEM



【Jリーグクラブライセンス制度】

2012シーズンの大きな変革の一つとして、「Jリーグクラブライセンス制度」のスタートが挙げられます。33クラブにJ1クラブライセンス、8クラブにJ2クラブライセンスが交付されました。ライセンス取得にあたっては、施設、財務などに乗り越えなければならないハードルがありますが、これは決してクラブをふるいにかける制度ではなく、ライセンスの審査項目には、クラブ運営のあるべき方向が示されています。審査基準で未充足の項目については、各クラブが前向きに取り組む姿勢を示しており、より良いクラブ運営に向けて努力を続けて欲しいと思います。それが世界に伍して戦うことを目指す日本サッカーの成熟、さらなる普及に向けて必要なシステムであると確信しています。

【+Qualityプロジェクト】

ピッチ上におけるクオリティを向上させることを主眼とした「+Qualityプロジェクト」を立ち上げました。ファンやサポーターの目線で、もっと質の高い試合、つまり「+Quality」を追求することで、試合の魅力アップにつなげたいという思いが込められています。「+Quality」の精神は、ファン・サポーターのためであり、Jリーグを支援いただく全ての方々の未来のためであり、世界と対等に戦うためには必須事項であると考えており、来シーズン以降もさらなる向上を促していきたいと思っています。

【アジアに向けたネットワークの構築】

2012年のJリーグは、アジアのサッカーにおける中心的存在となるべく、アジアの国々とのネットワーク強化にも取り組みました。タイ、ベトナム、ミャンマーのプロリーグとの提携をはじめ、提携国へのJクラブ派遣協力、アジアにおけるJ1リーグ戦のテレビ中継拡大、Jリーグアジアアンバサダーによる現地での活動など、アジアにおけるJリーグのブランドアップに一定の成果を挙げることができました。アジアのレベルを上げることが、日本サッカーの向上につながると信じ、Jリーグが20年間に培ったノウハウを惜しむことなく提供していきます。

こうしたアジアにおける取り組みと関連して、ACLでのJクラブの活躍も重要となります。日本から出場する4クラブには、ぜひ07年の浦和レッズ、08年のG大阪に続くアジア制覇を実現してもらいたいと思います。

【東日本大震災から1年が経過して】

東日本大震災から一年半余りが経過しましたが、被災地においては、まだまだ復興に向けてのハードルは高く、険しいものとなっています。Jリーグは「決して忘れない」という姿勢を堅持し、7月の「東日本大震災復興支援2012 Jリーグスペシャルマッチ」を軸として、チャリティーイベントの開催や募金を原資とした簡易照明の寄贈など継続的な支援活動を実施してきました。今後も、1日でも早い被災地の復興を願い、これまで以上に支援活動に力を入れていきます。

以上

Jリーグ報告

(1) リーグ戦

① 順位

2012Jリーグ デイビジョン1 総得点:855 試合平均得点:2.79

順位	クラブ名	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	サンフレッチェ広島	64	34	19	7	8	63	34	+29
2	ベガルタ仙台	57	34	15	12	7	59	43	+16
3	浦和レッズ	55	34	15	10	9	47	42	+5
4	横浜F・マリノス	53	34	13	14	7	44	33	+11
5	サガン鳥栖	53	34	15	8	11	48	39	+9
6	柏レイソル	52	34	15	7	12	57	52	+5
7	名古屋グランパス	52	34	15	7	12	46	47	-1
8	川崎フロンターレ	50	34	14	8	12	51	50	+1
9	清水エスパルス	49	34	14	7	13	39	40	-1
10	FC東京	48	34	14	6	14	47	44	+3
11	鹿島アントラーズ	46	34	12	10	12	50	43	+7
12	ジュビロ磐田	46	34	13	7	14	57	53	+4
13	大宮アルディージャ	44	34	11	11	12	38	45	-7
14	セレッソ大阪	42	34	11	9	14	47	53	-6
15	アルビレックス新潟	40	34	10	10	14	29	34	-5
16	ヴィッセル神戸	39	34	11	6	17	41	50	-9
17	ガンバ大阪	38	34	9	11	14	67	65	+2
18	コンサドーレ札幌	14	34	4	2	28	25	88	-63

2012Jリーグ デイビジョン2 総得点:1073 試合平均得点:2.32

順位	クラブ名	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	ヴァンフォーレ甲府	86	42	24	14	4	63	35	+28
2	湘南ベルマーレ	75	42	20	15	7	66	43	+23
3	京都サンガF.C.	74	42	23	5	14	61	45	+16
4	横浜FC	73	42	22	7	13	62	45	+17
5	ジェフユナイテッド千葉	72	42	21	9	12	61	33	+28
6	大分トリニータ	71	42	21	8	13	59	40	+19
7	東京ヴェルディ	66	42	20	6	16	65	46	+19
8	ファジアーノ岡山	65	42	17	14	11	41	34	+7
9	ギラヴァンツ北九州	64	42	19	7	16	53	47	+6
10	モンテディオ山形	61	42	16	13	13	51	49	+2
11	栃木SC	60	42	17	9	16	50	49	+1
12	松本山雅FC	59	42	15	14	13	46	43	+3
13	水戸ホーリーホック	56	42	15	11	16	47	49	-2
14	ロアッソ熊本	55	42	15	10	17	40	48	-8
15	徳島ヴォルティス	51	42	13	12	17	45	49	-4
16	愛媛FC	50	42	12	14	16	47	46	+1
17	ザスパ草津	47	42	12	11	19	31	45	-14
18	アビスパ福岡	41	42	9	14	19	53	68	-15
19	カタレ富山	38	42	9	11	22	38	59	-21
20	ガイナレ鳥取	38	42	11	5	26	33	78	-45
21	FC岐阜	35	42	7	14	21	27	55	-28
22	FC町田ゼルビア	32	42	7	11	24	34	67	-33

② 入場者数

J1 (試合数 306)

(人)	平均比較	合計	平均
2012年度	+1,769	5,375,300	17,566
2011年度	-	4,833,782	15,797
前年比	111%		
2010年度	-	5,638,894	18,428
2010年度比	95%		

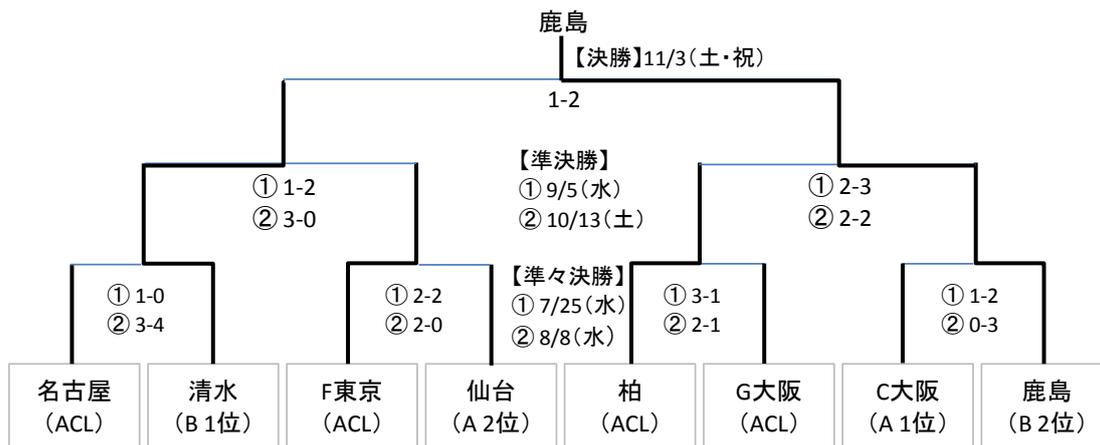
J2 (試合数 462)

(人)	平均比較	合計	平均
2012年度	-618	2,681,881	5,805
2011年度	-	2,440,695	6,423
前年比	90%		
2010年度	-	2,290,082	6,696
2010年度比	87%		

(2) リーグカップ戦

① 決勝トーナメント

2012 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ



② 入場者数

(人)	平均比較	合計	平均
2012年度	-1,875	492,089	8,947
2011年度	-	292,190	10,822
前年比	83%		
2010年度	-	571,570	10,392
2010年度比	86%		

(ご参考) 試合数

合計	予選リーグ*	決勝T
55	42	13
27	20	7
55	42	13

* 2011はトーナメント(震災により大会方式変更)

2012 JLEAGUE™ AWARDS 受賞一覧

●最優秀選手賞 Player of the Year 出場・得点は2012JリーグJ1リーグ戦終了時／GKの得点欄()内数字は失点

ポジション	選手名	チーム名	2012 J1		最優秀選手賞
			出場	得点	
FW	佐藤 寿人	サンフレッチェ広島	34	22	初

●ベストイレブン Best Eleven Players

ポジション	選手名	チーム名	2012 J1		ベストイレブン
			出場	得点	
GK	西川 周作	サンフレッチェ広島	34	(34)	初
DF	駒野 友一	ジュビロ磐田	34	3	初
DF	田中 マルクス闘莉王	名古屋グランパス	33	9	9
DF	水本 裕貴	サンフレッチェ広島	34	2	初
MF	レアンドロ ドミンゲス	柏レイソル	28	10	2
MF	遠藤 保仁	ガンバ大阪	34	5	10
MF	青山 敏弘	サンフレッチェ広島	34	2	初
MF	高萩 洋次郎	サンフレッチェ広島	34	4	初
FW	ウイilson	ベガルタ仙台	32	13	初
FW	佐藤 寿人	サンフレッチェ広島	34	22	2
FW	豊田 陽平	サガン鳥栖	33	19	初

●得点王 Top Scorer

ポジション	選手名	チーム名	2012 J1	
			出場	得点
FW	佐藤 寿人	サンフレッチェ広島	34	22

●ベストヤングプレーヤー賞 Best Young Player

ポジション	選手名	チーム名	2012 J1	
			出場	得点
MF	柴崎 岳	鹿島アントラーズ	31	1

●フェアプレー賞(高田宮杯) Fair Play Prize (Prince Takamado Cup)

サンフレッチェ広島

●フェアプレー賞(J1) Fair Play Prize (J1)

川崎フロンターレ

●フェアプレー個人賞 Fair Play Prize (Individual)

ポジション	選手名	チーム名	2012 J1	
			出場	得点
FW	佐藤 寿人	サンフレッチェ広島	34	22

●最優秀監督賞 Manager of the Year

監督名	チーム名
森保 一	サンフレッチェ広島

●最優秀主審賞 Referee of the Year

氏名		担当試合数			
		J1主審	J1副審	J2主審	J2副審
西村 雄一	2012	17	0	8	0
	通算	174	15	69	14

●最優秀副審賞 Assistant Referee of the Year

氏名		担当試合数			
		J1主審	J1副審	J2主審	J2副審
相楽 亨	2012	0	17	0	9
	通算	0	131	0	70

●Jリーグベストピッチ賞 J.LEAGUE Best Pitch

東北電力ビッグスワンスタジアム	17試合開催(J1)
日産スタジアム	14試合開催(J1)
アウトソーシングスタジアム日本平	16試合開催(J1)
キンチョウスタジアム	11試合開催(J1)

功労者表彰 Special Service Award

●功労選手賞

氏名	Jリーグ最終所属	J1出場	J1得点	J2出場	J2得点
藤田 俊哉	ジェフユナイテッド千葉	419	100	79	6
田中 誠	アビスパ福岡	360	10	59	2

●最優秀育成クラブ賞 Best Youth Scheme

コンサドーレ札幌

(4) 2012Jユースカップ 第20回Jリーグユース選手権大会

11/17(土) 11/18(日) 1回戦
 11/23(金・祝) 2回戦
 11/25(日) 準々決勝
 12/22(土) 準決勝
 12/24(月・祝) 決勝

